

### 1. 事例報告 復学支援の例

目次

1 事例報告 復学支援の例

2 研修会案内

3 編集後記



交通事故に遭い、高次脳機能障がいが残った A さん。学校に戻ることを考えると不安なことがたくさん浮かびました。そこで病院スタッフは、以下のような支援を行っていました。

#### 『しばらく休んでしまったけど、勉強についていけるか不安だなあ。』

- 学校の先生や家族にもととの学習状況を確認しながら、個別指導や補修の体制をとって貰えるかなど、学校側と話し合いを進めました。
- 教室での座席も、授業に集中できるように前に移してもらうなど、学校側への提案を行いました。

#### 『友だちにどう思われるのか心配だよ。』

- 病院スタッフが学校に出向き、手伝って欲しいことや困りそうなことをクラスメイトに伝える場を設けました。



#### 『疲れたときには休んでもいいのかなあ。』

- まだ疲れやすさが残ることを病院スタッフから学校側に説明し、授業に集中できなくなったり、休息が必要なときには、保健室で体を休めることにしました。

#### 『学校に戻ってから困った事があっても、病院には相談できないの?』

- 復学後も、本人・家族・医療機関・学校との情報交換の場を定期的に設定しました。学校生活を問題なく送れることが確認できたら、徐々にカンファレンスの頻度を減らしていくことにしました。

#### 『家で困ったことが出てきたらどうしたらいいの? (家族の思い)』

- 学校や医療機関だけではサポートが十分にできない場合もあります。家族会で同じ悩みを持つ人たちと交流の機会を確保したり、高次脳機能障がいに関する相談窓口の紹介を行いました。



今年の干支は  
「酉（とり）」ですね!  
とりのように羽ばたく  
1年にするぞ!!



【Aさんの現在】Aさんは、毎日学校に通っています。お友だちとは楽しく過ごせていますが、もっと部活動に積極的に取り組みたいという気持ちが強くなってきました。今後は部活動の状況も踏まえながら、支援を継続していく予定です。

復学支援は、学童期・思春期の成長過程における子どもの変化と、高次脳機能障がいによる影響をあわせて考えていく必要があります。支援機関は、それぞれの立場から情報交換を行い、本人にとってより良い学校生活を送れるよう、協力して支援していくことが重要です。



## 2. 研修会案内

### 第10回

### 高次脳機能障害と自動車運転勉強会

**日程** 2017年2月25日(土) 13:00~16:00

**場所** 千葉県千葉リハビリテーションセンター

(3階 研修室)

**参加対象者** 高次脳機能障害者の自動車運転再開に関する支援を行っている方及びこれから支援を行おうとしている方。

**参加費** 無料 **定員** 40名

#### 研修内容

##### ①事例検討

実車評価+練習を組み合わせで支援した2事例

##### ②報告

「脳卒中ドライバーのスクリーニング評価 (J-SDSA) と実車評価結果の検討」

「自動車運転再開を取り巻く最近の動向」

※ドライビングシミュレータ体験 (希望者)

講師：小倉 由紀、石田 理江子、庭野 みの里 他

**参加申込** 件名を「自動車運転勉強会参加申込」とし、本文に①氏名、②所属名、③職種、④E-mail アドレス、⑤DS 体験希望の有無、⑥会場までの交通手段を記載の上、下記申込先へ E-mail にてお申し込み下さい。

**申込締切** 2月10日(金)

#### 参加申込先

リハビリテーション療法部 成人療法室 作業療法科

E-mail アドレス : minori.niwano@chiba-reha.jp

[※詳しくはこちら](#)



◆◇いわて再発見◇◆

【小岩井農場】



日本最大の民間総合農場です。園内には、アトラクションやレストランが充実し、大自然を体感しながら観光できるお勧めスポットです。

## 3. 編集後記

今回は復学支援の事例を紹介させていただきました。近くに似たような方がおりましたら、ぜひ支援の参考にさせていただけたらと思います。寒さが厳しい時期になっていますが、インフルエンザ等にかからぬよう温かくしてお過ごしください。

ご意見ご感想はこちらまで メールニュース担当 (佐藤・渡辺・富山・佐々木)  
アドレス [koujinou-shien-reha@irc.or.jp](mailto:koujinou-shien-reha@irc.or.jp)